

1-2 日本思想史

研究・教育活動の概要と特色

日本思想学は諸外国や諸民族との対比において、「日本的」なものの考え方や価値観の形成過程とその独自性を、歴史的な視点から客観的に明らかにしようとする学問です。この列島上で展開された、古代から現代までのさまざまな思想的営みを広く明らかにすることによって、人間とは何か、「日本人」とは何か、といった問題を探っていくことを目的としています。

東北大学の日本思想史研究室は、博士後期課程までを持つこの分野では国立大学法人中の唯一の研究室として、大正12年の開設以来、一貫して日本思想史研究界の中心的役割を担い、多数の優れた研究者を国内外に送りだしてきました。教育界などでも多くの修了生が活躍しています。

本研究室では授業のほかに、定例研究界や史料講読会の開催、学術雑誌の刊行など、大学院生を主体とする活発な研究活動が行われています。また教員が毎年国際学会で発表するなど、国内外の大学・研究機関・研究者との学問的・人的交流も、年々盛んになっています。

組織

1 教員数(2011年9月末現在)

教授： 1

准教授： 1

講師： 0

助教： 0

教授：佐藤 弘夫

准教授：片岡 龍

助教：桐原 健真(コンピュータ室)

2 在学生数（2011年9月末現在）

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
24	0	7	18	2

3 修了生・卒業生数（2007～2011年度）

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者)
07	8	5	0
08	8	5	1
09	9	1	0
10	10	5	3
11	0	0	0
計	35	16	4

* 2011年度は、9月末までの数字

過去5年間の組織としての研究・教育活動（2006～2010年度）

1 博士学位授与

1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
07	2	1	3
08	0	0	0
09	1	0	1
10	3	0	3
11	0	1	1
計	6	1	8

* 2011年度は、9月末までの数字

1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

先崎彰容、2007年度、『個人主義のゆくえ—福沢諭吉、高山樗牛、和辻哲郎にみ

る』

審査委員：教授・佐藤弘夫（主査）、教授・佐藤伸宏、助教授・片岡龍
佐久間正、2007年度、『徳川日本の思想形成と儒教』

審査委員：教授・佐藤弘夫（主査）、教授・大藤修、准教授・片岡龍
大川真、2007年度、『王権・言葉・心をめぐる近世政治思想史研究』

審査委員：教授佐藤弘夫（主査）・教授大藤修・准教授片岡龍
富樫進、2009年度、『鑑真門下における護国仏教の研究——政治思想との関わり
において』

審査委員：教授・佐藤弘夫（主査）、教授・佐藤伸宏、准教授・片岡龍、准
教授・佐倉由泰

水野雄司、2010年度、『本居宣長の思想構造』

審査委員：教授・佐藤弘夫（主査）、教授・佐藤伸宏、準教授・片岡龍
鈴木啓孝、2010年度、『摂関院政期思想史研究』

審査委員：教授 佐藤弘夫（主査）、教授 佐藤伸宏、准教授 片岡龍
森新之介、2010年度、『摂関院政期思想史研究』

審査委員：教授 佐藤弘夫（主査）、教授 鈴木岩弓、准教授 片岡龍
高橋博巳、2011年度、『文人の世紀』

審査委員：教授 佐藤弘夫（主査）、教授 佐藤伸宏、教授 佐倉由泰

2 大学院生等による論文発表

2-1 論文数

年度	審査制学術誌 （学会誌等）	非審査制誌 （紀要等）	論文集 （単行本）	その他	計
07	3	0	0	0	3
08	3	2	0	0	5
09	2	2	2	1	6
10	9	3	0	5	17
11	8	3	4	0	15
計	25	10	6	6	47

* 2011年度は9月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
07	0	4	10	0	14

08	3	1	11	1	16
09	2	12	4	0	18
10	7	10	8	2	27
11	8	12	4	0	24
計	20	39	37	3	99

* 2011年度は9月末までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

研究会については概数。

2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

(1) 論文

鈴木啓孝「青年原敬における明治啓蒙主義の内面化——「土族の超越」を中心に」
『日本歴史』2007年。

中嶋英介「大道寺友山の土道論」『文化』（東北大学文学会）第71巻第1・2号、2008年。

中嶋英介「武教への道—山鹿素行の修養論」『文化』第73巻1・2号、2009年）

中嶋英介「〔翻刻〕「古事記講義（序文）」『季刊日本思想史 特集—村岡典嗣：新資料の紹介と展望』74号、2009年（富樫進と共著）

中嶋英介「〔翻刻〕村岡典嗣「古事記序文講義」『日本思想史研究』41号、2009年、（本村昌文との共著）

中嶋英介「【資料紹介】村岡典嗣「仙台の吉利支丹について」」『東北大学史料館紀要』5号、2010年（本村昌文との共著）

中嶋英介「【書評】竹村英二著『幕末期武士/土族の思想と行為 - 武人性と儒学の相生的素養とその転回』」『日本経済思想史研究』10号、2010年

中嶋英介「大道寺友山『武道初心集』考」書物・出版と社会変容9号、2010年
岡安儀之「「平民」民権家・福地源一郎の「国民」形成論—土族平民民権論争を中心に—」『歴史』第110輯、東北史学会、2008年4月。

岡安儀之「政論新聞化と読者啓蒙—『東京日日新聞』入社期における福地源一郎を中心に—」『武蔵大学人文学会雑誌』第40巻第4号、武蔵大学人文学会、2009年3月。

森新之介「撰関院政期貴族社会における末代観——災異思想や運命論との関連から——」、『日本思想史研究』第40号、2008年。

森新之介「九条兼実の反淳素思想——中世初期における貴族の歴史思想の一側面——」、『日本思想史学』第40号、2008年。

- 森新之介「摂関院政期における歴史思想——末代観と末法思想の比較を通して——」、『日本思想史研究』第41号、2009年。
- ニネット・サチコ・ペーチュ、森新之介（共訳）マーク・テーウェン（著）「神道（ジンドウ）と神道（しんとう）の成立についての比較考察」、『日本思想史研究』第42号、2010年。
- 森新之介「法然房源空の二門判と二行判　その能否と難易、勝劣について　」、『宗教研究』第366号、2010年。
- 森新之介「法然房源空の思想形成過程　その凡夫意識と自行志向について　」、『日本思想史研究』第43号、2011年度刊行予定。
- 葛睿「西村茂樹における神道観　国民道德の基礎をめぐって　」、『宗教研究』第368号、2011年6月。
- 高橋恭寛、「晩年の中江藤樹における修養論の一側面—対算と慎独をめぐって—」、『日本思想史研究会報』27号、日本思想史研究会（京都）、2010年3月
- 高橋恭寛、「中江藤樹による初学者への教示」、『文化』74号1・2号、東北大学文学部、2010年。
- アントニウス・プジョ「新渡戸稲造の神道観」、『日本思想史研究』第43号、2011年度刊行予定。
- Morris Jonathan ‘Issues in Constructivism and Comparative Research from a Religious Studies Perspective’（『公益学研究』第11巻第1号，pp72-79，2011，査読付き論文）
- Morris Jonathan 【翻訳】Hikino Kyōsuke “Hōnen” and “Shinran” in Early Modern Jōdo Shinshū’ ‘The Eastern Buddhist’ NS42-1,2011.
- Morris Jonathan 【翻訳】Tanigawa Yutaka ‘No separation, No clashes: An Aspect of Buddhism and Education in the Meiji Period’ ‘The Eastern Buddhist’ NS42-1 2011.
- 村上麻佑子「網野貨幣論の到達と限界」、『検証 網野善彦の歴史学』、2009年
- 村上麻佑子「網野貨幣論の到達と限界」東北中世史サマーシンポジウム「歴史家 網野善彦 をめぐる知の冒険」、2008年8月
- 小嶋翔「明治期与謝野晶子における自己認識の変容」、『日本思想史学』42号、2010年9月）
- 小嶋翔「大正初期における与謝野晶子の国民意識　母性保護論争前史として」（『日本思想史研究』43号、2011年度刊行予定）

油座圭祐「柳田民俗学の根底に流れるもの—「山人」の語を手掛かりとして—」『日本思想史研究』41号、2009年3月

クラウタウ、オリオン「大正期における日本仏教論の展開 高楠順次郎の思想的研究・序説」『日本思想史学』第42号、2010年9月。

クラウタウ、オリオン「十五年戦争期における日本仏教論とその構造 花山信勝と家永三郎を題材として」『佛教史学研究』第53号・第1号、2011年11月

クラウタウ、オリオン「新刊紹介 小川原正道編『近代日本の仏教者 アジア体験と思想の変容』」『近代仏教』第18号、2011年5月

KLAUTAU, Orion. “TANIGAWA Yutaka. *Meiji Zenki no kyōiku, kyōka, bukkyō*” *Japanese Journal of Religious Studies*, 38/1, 2011

KLAUTAU, Orion. “(Re)inventing ‘Japanese Buddhism’: Sectarian Reconfiguration and Historical Writing in Meiji Japan”. *The Eastern Buddhist* (new series), 42/1, 2011

KLAUTAU, Orion. “The Field of ‘Religious Studies’ in Brazil”. *Pantheon: Journal for the Study of Religions* (University of Pardubice), 8/1, 2011

船田淳一「南都の中世神話・神道説をめぐって 春日社・興福寺・貞慶を中心に」(伊藤聡編『中世文学と隣接諸学3 中世神話と神祇・神道世界』竹林舎、2011年4月1日)。

船田淳一「聖地における本地仏と儀礼 石清水八幡宮の愛染明王信仰」(藤巻和宏編『聖地と聖人の東西 起源はいかに語られるか』勉誠出版、2011年8月31日)。

船田淳一「中世神道における冥と顕 慈遍の著作を中心に」(池見澄隆編『中世 冥・顕の精神史』法蔵館、2012年3月刊行決定)。

船田淳一「浄土宗と神仏習合 中世律宗の天照説話から近世浄土宗の天照説話へ」(『法然仏教とその可能性』法蔵館、2012年3月刊行決定)。

(2) 口頭発表

中嶋英介「土道論再考—山鹿素行を中心に」日本思想史学会大会 2007年10月。

中嶋英介「近世土道論における軍記物の諸相—山鹿素行を中心に」日本文芸研究会 2008年6月。

Eisuke Nakazima “An aspect of *Bushido*; argument in the *Tokugawa* period; The perspective of *Yamaga Soko*”; Hanyang-UBC Conference 2008年6月, The

University of British Columbia(Canada)

中嶋英介「近世の職分論考—山鹿素行を中心に」日本経済思想史研究会 月例会

2008年10月4日 於慶應義塾大学

中嶋英介「山鹿素行の軍記物受容」 日本思想史学会大会 2008年10月19日

於愛知教育大学

中嶋英介「武教への道—山鹿素行の修養論」東北近世史研究会 2008年3月21

日

中嶋英介「山鹿素行の教化論—「武教」の展開を中心に—」日本経済思想史研究

会 全国大会 2009年6月7日 於大東文化大学

中嶋英介「大道寺友山『武道初心集』考」日本文芸研究会 研究発表会 2009年

9月19日発表 於仙台電波工業高等専門学校

中嶋英介「山鹿素行についての威儀」茨城の思想研究会 水戸公民館 2010年3

月

中嶋英介「武士道論研究の現在と山鹿素行」東北アジアにおける多文化共生の実

態研究(分科会:東北アジアにおける伝統文化と思想) 中華人民共和国内

蒙古自治区、2011年8月

岡安儀之「新聞の政論化と「論壇」の誕生—民撰議院論争から士族・平民民権論

争へ」2007年度東北史学会大会、東北大学、2007年9月。

岡安儀之「「論壇」の成立—明治8年の大論争」日本思想史学会 2007年度大会、

長崎大学、2007年10月。

岡安儀之「福地源一郎における旧幕論の射程—その歴史認識を中心に—」2008年

度明治維新史学会研究例会、2008年5月、於明治大学。

岡安儀之「福地源一郎における旧幕論の射程」明治維新史学会 2008年度第38回

大会、2008年6月、於青山学院大学。

岡安儀之「西南戦争以前における福地源一郎の言論活動—「国民」形成論を中心

に—」(第184会メディア史研究会月例研究会、2009年5月30日、日本大

学三崎町キャンパス)

岡安儀之「福地源一郎の言論活動—史論を中心に—」(第5回仙台近現代史研究

会、2009年6月19日、東北大学)

森新之介「日記の思想—撰閣院政期を中心とした貴族の古典学—」、『日本

思想史研究会夏季セミナー』、2008年8月23日。

森新之介「九条兼実の道理と慈円の道理」、日本思想史学会、2008年10月19日。

- 森新之介「法然房源空の末代観と末法思想」、日本思想史学会、2009年10月18日。
- 葛睿「西村茂樹における「中」の思想」、日本思想史学会大会（於、愛知教育大学）2008年10月
- 葛睿「西村茂樹の宗教観」日本文芸研究会第六十一回研究発表大会発表 2009年6月
- 葛睿「近代における日中の知識人と宗教 —— 西村茂樹と梁啓超を中心に」台湾大学シンポジウム「東アジア儒学と日本の思想」2009年9月
- 葛睿「近代中国における国民道徳と宗教 章炳麟を中心にして」、東洋大学、日本宗教学会第69回学術大会、2010年9月3日～5日
- 葛睿「明治初期における「国民」言説に関する一考察 西村茂樹を中心に -」、2010年11月6日、日本思想史月例会口頭発表。
- 葛睿「国民道徳論と儒教 西村茂樹を中心に」、2010年11月20日、東アジアの思想と対話・日韓国際シンポジウム。
- アントニウス・プジョ,筆と剣—東南アジアにおける太平洋戦時下の日本文学者の関与について—、”The First International Symposium on “Language, Culture, and Globalization in Southeast Asian Countries”, アイルランガ大学、インドネシア,2008年12月11日
- アントニウス・プジョ,新渡戸稲造『武士道』と明治時代のナショナリズム,東アジア「武士道の研究」国際シンポジウム、北京日本学研究中心、中国,2009年2月15日、
- アントニウス・プジョ,新渡戸稲造の神道観、日本思想史学会、東北大学、2009年10月18日
- アントニウス・プジョ,若き新渡戸稲造の神道観、日本文芸研究会、福島大学,2010年6月20日
- 高橋恭寛、「晩年の中江藤樹—慎独と対算について—」日本文芸研究会第2回研究発表会、2009年12月
- 高橋恭寛、「慎独から対算へ—中江藤樹の修養論の展開」日本思想史研究会（京都）例会、2009年12月
- 高橋恭寛、「中江藤樹における修養論の多面性」奈良女子大学・東北大学合同研究会、2010年8月
- 高橋恭寛,日韓次世代学術フォーラム第7回国際学術大会、指定討論者(分科7[宗

- 教・思想]）、2010年6月
- 高橋恭寛、「中江藤樹における福善禍淫論」日本思想史研究会（京都）例会,2010年12月
- 高橋恭寛、「中江藤樹『持敬図説』と四書」日本文芸研究会第六三回研究発表大会,2011年6月
- 高橋恭寛、「江戸初期における善書受容の一形態 中江藤樹を中心にして」東北アジアにおける多文化共生の実態研究国際シンポジウム,2011年8月
- 高橋恭寛、「江戸儒者における「立志」教示の一展開 中江藤樹を中心として」日韓次世代学術フォーラム 第8回国際学術大会(分科7〔宗教・思想〕),2011年8月。
- 吉川裕,「服部南郭再考—服部南郭の詩と礼楽観を中心に—」日本思想史研究会6月例会、2008年6月、於東北大学
- 吉川裕,「服部南郭の憂悲とその解消 - 「雑詩三首」「寐隠辯」を手がかりとして - 」日本思想史学会大会、2009年10月、於東北大学
- 吉川裕,「村井古巖について」駅長オススメの小さな旅&小さな旅行プラン"学び地蔵"合格祈願!「雲上寺」の特別見学&かまぼこ工場見学、2009年11月
- 吉川裕,「『江戸名所図会』に表れた服部南郭—南郭受容の一側面」シンポジウム「近世の旅と名所」、2010年3月、於山形県立米沢女子短期大学
- 吉川裕,「村井古巖ってどんな人?」第一回なみこしえんにち、2010年5月、於雲上寺
- 吉川裕,「江戸文人の死生観—服部南郭を中心として—」タナトロジー研究会、2010年6月、於緩和ケアクリニック仙台
- 吉川裕,「伊東藍田の当代批判 「名説」を中心に」日本思想史学会大会、2011年10月30日、於学習院大学
- ジョナサン・モリス「聖人のミイラ化と浄土思想について」(2009年4月25日、日本思想史研究会4月例会)
- ジョナサン・モリス「弘法大師入定説と往生伝文学について」(2009年10月、日本思想史学会2009年度大会)
- Morris Jonathan International Association of the History of Religions, at the University of Toronto, August 15-21, 2010 *'Pure Land Thought and the Legend of the Eternal Meditation of Kukai.*
- ジョナサン・モリス「弘法大師入定説の成立と展開について」(2010年12月、

- 日本思想史研究会例会、於：立命館大学)
- Morris Jonathan International Medieval Congress, at the University of Leeds
11-14 July 2011 '*Between Life and Death in Medieval Japan and Europe*'
- ジョナサン・モリス「『弘智法印御伝記』と即身仏の研究」(2011年9月、日本宗教学会第70回学術大会)
- 村上麻佑子「網野貨幣論の到達と限界」東北中世史サマーシンポジウム「歴史家 網野善彦 をめぐる知の冒険」、2008年8月
- 村上麻佑子「古代日本における食国の思想」2011年度日本思想史学会大会、2011年10月、於学習院大学
- 小嶋翔「女流浪漫主義歌人の文明開化 明治四〇年代から大正初年にかけての与謝野晶子を題材として」日本思想史研究会5月例会、2009年5月
- 小嶋翔「与謝野晶子の「文明」的人間観における国家の位相」日本思想史学会、2009年10月
- 小嶋翔「与謝野晶子の国民意識」日本思想史研究会4月例会、2010年4月
- 小嶋翔「第一次『明星』誌上における与謝野晶子の二つの「自我」」日本文芸研究会平成22年度第1回研究発表会、2010年9月
- 小嶋翔「何者でもない者、何者かでありたい者、「自分」 らいてう平塚明子の初期思想闘争」日本思想史学会、2011年10月
- 油座圭祐「柳田民俗学の根底に流れるもの—「山人」の語を手掛かりとして—」日本文芸研究会大会、2009年6月
- 島田雄一郎「福沢諭吉における「理」と「情」 その道德観の一考察」(日本思想史研究会6月例会、東北大学、2010年6月)
- 島田雄一郎「福沢諭吉における非合理的な「人情」への対処」(日本思想史学会2010年度大会、岡山大学、2010年10月)
- 中港えり「埋葬方法から見る死後のゆくえ」(日本思想史研究会7月例会、東北大学、2011年7月)
- クラウタウ、オリオン「村上専精と「日本仏教の特色」」第18回日本近代仏教史研究会、2010年5月22日、於 国学院大学
- クラウタウ、オリオン「村上専精と 日本仏教の特色」第18回日本近代仏教史研究会、於國學院大學、2010年5月22日
- Klautau, Orion. "Religious Studies in Brazil: Modernity, Catholicism and the State"
(Panel: Comparative Perspectives on the Development of 'Religious Studies') XXth

- IAHR Quinquennial World Congress, University of Toronto, 2010.8.19
- Klautau, Orion. “(Re)inventing ‘Japanese Buddhism’: Murakami Senshō and the Writing of History” (Panel: Rethinking Japanese Buddhism: Kawaguchi Ekai and Murakami Senshō) XXth IAHR Quinquennial World Congress, University of Toronto, 2010.8.20
- クラウタウ、オリオン「尊皇奉仏大同団とその思想的営為」日本宗教学会第 69 回学術大会、2010 年 9 月 4 日、於 東洋大学
- クラウタウ、オリオン「真宗とアカデミズム仏教学——東京（帝国）大学を中心に」（パネル「近代仏教と真宗の問題」）日本思想史学会 2010 年学術大会、2010 年 10 月 17 日、於 岡山大学
- Klautau, Orion. “Shin Buddhist Faith and the Academic Study of Buddhism in Modern Japan” (Workshop: Defining Shin Buddhist Modernity) American Academy of Religion 2010 meeting, Atlanta (GA), 2010.10.31
- クラウタウ、オリオン「十五年戦争期の日本仏教論——アカデミズムを中心に」（公開シンポジウム「十五年戦争と近代仏教」）日本近代仏教史研究会第 19 回研究大会、於淑徳大学、2011 年 6 月 4 日
- クラウタウ、オリオン「ファシズム期における日本仏教論とその諸問題」（公開シンポジウム「仏教の誤読」）、日本文芸研究会・第 63 回研究発表大会、於東北大学、2011 年 6 月 11 日
- KLAUTAU, Orion. “Buddhism in Essence and Manifestation? Perspectives on Shōtoku Taishi and Shinran during the Fifteen-Year War” (Panel Session “Modern Framings of Shin Buddhism: Historical, Literary and Institutional Adaptations of the 20th and 21st Centuries”), Fifteenth Biennial Conference of the International Association of Shin Buddhist Studies, Kyoto, Otani University, 2011.8.5.
- クラウタウ、オリオン「十九世紀末における仏教公認運動とその思想史的意義」2011 年度日本宗教史懇話会サマーセミナー、於京都エミナース、2011 年 8 月 25 日
- クラウタウ、オリオン「立憲国家の成立と近代仏教の思想的展開」第 73 回民衆思想研究会・東北近世史研究会（合同特別例会）、於東北大学、2011 年 8 月 27 日クラウタウ、オリオン「明治中期における日本仏教の言説的位相 仏教公認運動を中心に」（パネル「新しい近代日本仏教研究へ 自己認識・国民国家・社会参加」）、於関西学院大学、2011 年 9 月 3 日（『宗

教研究』第 71 号に要旨掲載)

KLAUTAU, Orion. “Revisiting the ‘Three Nation’ Discourse: Early 20th Century Narratives on the Distinctive Features of ‘Japanese Buddhism’” (Panel “The Construction of Religion between China and Japan, 1860s - 1930s”) Association of Asian Studies 2012 Annual Conference, Toronto (Canada), March 2012.

船田淳一「中世神道説における冥と顕 慈遍を中心に」日本思想史学会
2011 年度大会、10 月 30 日、於・学習院大学。

3 大学院生・学部生等の受賞状況

なし

4 日本学術振興会研究員採択状況

(PD) 2008 年、受け入れ。

(PD) 2010 年、受け入れ。

(DC) 2010 年、採択。

(PD) 2011 年、受け入れ。

5 留学・留学生受け入れ

5-1 大学院生・学部学生等の留学数

5-2 留学生の受け入れ状況

年度	学部	大学院	計
07	4	3	7
08	3	5	8
09	2	6	8
10	2	6	8
11	1	7	8
計	12	27	39

6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
07	2	0	2

08	3	0	3
09	0	0	0
10	2	0	2
11	2	0	2
計	9	0	9

7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

7-1 専攻分野出身の研究者

- 大川真 東北大学大学院文学研究科助教 2008年度～2010年度
 森川多聞 韓国・東明情報大学校ホテル経営学科専任講師 2008年度～2010年度
 鈴木啓孝 韓国・東明情報大学校ホテル経営学科専任講師 2008年度～
 先崎彰容 東日本国際大学 准教授 2010年度～
 中嶋英介 蘭州大学外国語学院日語系外籍教師 2010年度～
 岡安儀之 西安外国語大学専任講師 2011年度～
 昆野伸幸 神戸大学大学院国際文化学研究科 2011年度～

7-2 専攻分野出身の高度職業人

- 2007年度 高教員1、中教員1
 2008年度 出版社1
 2009年度 高教員1
 2010年度 研究所所員1
 2011年度 高教員2

8 客員研究員の受け入れ状況

- 2009年度 リサーチフェロー 李彩華（名古屋経済大学准教授）

9 外国人研究者の受け入れ状況

- 2009年度 客員研究員 成海俊（韓国・東明情報大学）

10 刊行物

- 『日本思想史研究』（年刊）

『年報日本思想史』（年刊）

1 1 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

日韓共同シンポジウム「18—19C 東アジア思想空間の再発見」（主催）2007年
8月31日～9月2日。

日本思想史学会事務局、2008年10月～。

日本思想史学会大会、2009年10月17・18日

1 2 専攻分野主催の研究会等活動状況

2007年度

日本思想史研究会月例会 8回開催

日本思想史夏季セミナー テーマ「知の伝達」

2008年度

日本思想史研究会月例会 8回開催

日本思想史夏季セミナー テーマ「「古典」を考える」

合同研究会「日本の政治のかたち」

2009年度

日本思想史研究会・東北大学臨床死生学研究会共催シンポジウム「人文学と
現場との協業による臨床死生学の構築」

日本思想史研究室主催「シンポジウム 近世の旅と名所」（於 米澤女子短
期大学）

2010年度

日本思想史研究会月例会 9回開催

東北大学・奈良女子大学・東北芸術工科大学合同研究会

日本思想史研究会・仙台近現代史共催シンポジウム「近代日本の戦争と宗教」

2011年度

日本思想史研究会月例会 1回開催（2011年9月現在）

日本思想史研究会・文芸研究会合同研究発表会（9月）

1 3 組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価

日本思想史専攻分野は、2011年4月1日現在、学部生24名・大学院生25名・研究
生等5名、日本学術振興会特別研究員3名が所属しており、留学生も6ヶ国から8名を

受け入れている。教員一人当たりの学生数としては、文学研究科の中でもトップを争う位置にある。

大学院入試において本専攻分野を志願するものはきわめて多く、ここ 10 年間は毎年前期課程・後期課程を合計して、専攻分野の定員のほぼ 2~3 倍に当たる 6~9 名の大学院生を受入れている。他大学からの志願者の割合がきわめて多いことも本専攻分野の特色であり、現在在籍する大学院生の 7 割以上が東北大学以外の出身である。

東北大学の日本思想史研究室は、日本における思想史研究の草分けともいえる古い伝統を持つが、その伝統に安住することなく、国内はもとより国際的な研究センターの役割を果たすべく、研究・教育のレベルアップを図ってきた。

2007 年 8 月 31・9 月 1 日の両日には、本研究室の主催により、韓国からの出席者 40 名を含む国内外から 100 名以上の研究者の参加をえて、日韓共同国際シンポジウム「18—19C 東アジア思想空間」を成功裏に開催することができた。2 日には 50 名が参加して、平泉方面への見学旅行が行われた。

本専攻分野では授業の他に、大学院生の主催する数多くの自主的な読書会（史料講読会）がもたれている。本専攻分野の大学院生・OB が中心となって「日本思想史研究会」が結成されているが、同研究会は毎月第 3 土曜日に月例の公開研究発表会を開催し、大学院生や東北大学内外の研究者が発表を行っている。また、同研究会は毎年夏に 1 泊 2 日で研究会形式の合宿（夏季セミナー）を実施しており、2008 年 8 月に行われた同セミナーでは、東北大学以外の多くの大学の大学院生・教員を含む 45 名が参加し、活発な討論を繰り広げた。

大学院生には、日本思想史学会をはじめとする全国学会での発表を積極的に勧めている。従来あった研究室の雑誌『日本思想史研究』に加えて、新たに『年報日本思想史』を刊行し、院生の研究発表の場を拡げる努力を行っている。また定評ある全国学会誌への投稿を奨励しており、『日本思想史学』『日本歴史』『宗教研究』『日本史研究』『仏教史学研究』『歴史』『歴史評論』など、当該分野でよく読まれている雑誌に毎年論文が採用されている。

すでに教員は毎年海外の国際学会での発表を実践し、国際的な研究者のネットワーク作りを推進しているが、学生にも海外への研究留学を体験してもらい、それを生かしたスケールの大きな研究者の育成を目指している。ここ 5 年間では大学院在学中の学生 1 名がフランスに、大学院 OB2 名がアメリカに留学している。今後アジアも含めて、学生の海外体験の機会をいっそう拡げていきたいと考えている。

2005 年 4 月には、教員佐藤弘夫が編集代表となり、本専攻分野の OB を中心とする

研究者が主体となって、『日本思想史概説』（ミネルヴァ書房）が刊行された。この書ははじめての本格的な日本思想史の通史として国内外の注目を集め、現在韓国語・中国語への翻訳の準備が進められている。また2008年3月には、教員片岡龍が共同編集を務め、本専攻分野のOB6名の研究者を執筆陣に含む『日本思想史ハンドブック』（新書館）が刊行され、現在韓国語への翻訳の準備が進められている。

教員の研究活動（2007～2011年度）

1 教員による論文発表等

1-1 論文

佐藤弘夫「偽書をつくる人々」『現代のエスプリ』481号、2007年。

佐藤弘夫「専修念仏と神祇不拝—なぜ念仏は弾圧されたのか」『真宗教学研究』28号、2007年。

佐藤弘夫「日本宗教の多面的・多角的解明に向けて—仏教史の立場から」『日本宗教文化史研究』11号、2007年。

佐藤弘夫「「神仏習合」論の形成の史的背景」『宗教研究』353号、2007年。

佐藤弘夫「平家物語における死と救済」『国文学』52—15号、2008年。

佐藤弘夫「網野史学における神と天皇」『大航海』65号2008年。

佐藤弘夫「天皇の宗教的権威・再考」『古代日本の構造と原理』青木書店、2008年。

佐藤弘夫「板碑を通してみる中世東国の宗教世界」『日本仏教総合研究』6号、2008年。

佐藤弘夫「アラヒトガミの系譜」『季刊日本思想史学』73号、2008年。

佐藤弘夫「死者は山に棲むか—「日本人」の靈魂観・再考」『アジア遊学』124号、2009年。

佐藤弘夫「前方後円墳に宿るもの—祖霊観の系譜からみた」『死の機能 前方後円墳とは何か』岩田書院、2009年。

佐藤弘夫「近代の歴史学と立正安国論」『福神』14号、2010年。

佐藤弘夫「西行における「山」と救済」『西行学』1号、2010年。

佐藤弘夫「王都奈良の原像」『ならじあ2 東アジア共同体?』丸善、2010年。

佐藤弘夫「霊場と巡礼」『兵たちの極楽浄』高志書院、2010年。

佐藤弘夫「変貌する日本仏教観」『新アジア仏教史12』校正出版社、2010年。

佐藤弘夫「「蒙古の調伏者」日蓮像の形成」『仏教美術研究上野記念財団助成研

- 究会報告書』37号、2010年.
- 佐藤弘夫「本地垂迹の世界観」『日本の対外関係3 通行・通商圏の拡大』吉川弘文館、2010年.
- 佐藤弘夫「彼岸に通う音—神仏の音がノイズになるとき」『文学』11巻6号、2010年.
- 佐藤弘夫「中世における神観念の変容」『中世神話と神祇・神道世界』竹林舎、2011年.
- 佐藤弘夫「アマテラス神話の中世」『季刊東北学』27号、2011年.
- Sato Hiroo “Changes in the Concept of Mountains in Japan” *Cahiers d'Extreme-Asie*, 18号、2011年.
- 片岡龍「人文学のゆくえをめぐる随想二題—東アジアの思想研究」『中国学への提言 外から見た日本の中国学研究』日本中国学会、2007年.
- 片岡龍「儒教に対する使命感と諦念」『茶山学』11、2007年.
- 片岡龍「思想史学は現代的問題に寄与できるか？」『年報日本思想史』6、2007年.
- 片岡龍「伊藤仁斎の『孟子』論」『日本漢学国際学術検討会予稿集』2008年.
- 片岡龍「朱子学派・古学派の知的教養としての側面」『儒教の前近代性・近代性・脱近代性(1)』、2008年.
- 片岡龍「朱子学からの転換」『東アジアの政治伝統と民族主義：過去・現在・未来』、2008年.
- 片岡龍「目に見えないものへの想像力」『韓・日思想史共同シンポジウム予稿集』2008年.
- 片岡龍「抽象的情熱のポンプ」『大航海』67、2008年.
- 片岡龍「14～19世紀の日本の学問の特色と、その変化」『茶山学』14、2009年.
- 片岡龍「荻生徂徠—「独学」の魅力—」『近代東アジア知識人の生と学問』成均館大学出版部、2009年.
- 片岡龍「伊藤仁斎之『孟子』論」『江戸時代日本漢学研究諸方面：思想文化篇』、国立台湾大学出版中心、2009年.
- 片岡龍「文学史」と「思想史」の融合」『中国—社会と文化』24、2009年.
- 片岡龍「伊藤仁斎の学問観—〈公共〉への参与と鑑識—」『公共する人間1 伊藤仁斎』東京大学出版会、2011年.
- 片岡龍「韓日思想架橋：伊藤仁斎と丁茶山の間から」『世界と相通する慶北正体

- 性国際フォーラム予稿集 』韓国学振興院（韓国・安東）、2011年
- 片岡龍「石田梅岩から考える「公共する」実践」『公共する人間2 石田梅岩』
東京大学出版会、2011年10月刊行予定
- 片岡龍「鏡としての歴史」『ハンの公共する人間』東京大学出版会、2011年12
月刊行予定
- 片岡龍「日本における『論語』の読まれ方 伊藤仁斎（京都）・荻生徂徠（江
戸）・照井一宅（盛岡）・下村湖人（佐賀）を中心に 』『東日本国際
大学研究紀要』7、2012年3月刊行予定
- 大川真「叫ばれる正名—統一的国家イデオロギーの成立—」『歴史』108輯、東
北史学会、2007年4月、78～100頁。
- 大川真「後期水戸学における思想的転回—会沢正志斎の思想を中心に—」『日本
思想史学』39号、日本思想史学会、ペリカン社、2007年9月、112～128
頁。
- 桐原健真「「外夷の法」——吉田松陰と白旗」、『日本思想史研究』40号、2008
年3月、82～98頁
- 桐原健真「「帝国」の誕生——19世紀日本における国際社会認識」黄自進編『東
亜世界中の日本政治社会特徴』台北・中央研究院人文社会科学研究センター
区域研究専題中心、2008年8月、139～164頁
- 桐原健真「死而不朽——吉田松陰における死と生」、『季刊 日本思想史』73号、
2008年10月、55～74頁
- 桐原健真「「病院」の思想——幕末維新时期における西洋社会事業観念の展開」、
陶徳民・姜克實・見城悌治・桐原健真編著『東アジアにおける公益思想の変
容 近世から近代へ』日本経済評論社、2009年3月、117～136頁
- 桐原健真「求法の道——河口慧海と「日本仏教」」、小川原正道編『近代日本の
仏教者における中国体験・インド体験』DTP出版、2009年3月、61～72頁
- 桐原健真「「常州水府の学」としての水戸学——会沢正志斎を中心に」、地方史
研究協議会編『茨城の歴史的環境と地域形成』雄山閣、2009年10月、91～
110頁
- 桐原健真「超脱の思想——小楠・松陰そして龍馬」、岩下哲典・小美濃清明編『龍
馬の世界認識』藤原書店、2010年02月、95～114頁
- 桐原健真「19世紀東アジアと「帝国」日本」、『京都産業大学世界問題研究所紀
要』25号、2010年03月、116～128頁

桐原健真「河口慧海——求法の道の終着点」、小川原正道編『近代日本の仏教者』
慶應義塾大学出版会、2010年04月、245～275頁

桐原健真「「帝国」の思想」、吉田忠編『19世紀東アジアにおける国際秩序観の
比較研究』財団法人国際高等研究所、2010年06月25日、111～128頁

桐原健真「幕末維新时期尊攘論における国際社会認識の転回 「帝国」言説をめ
ぐって」、韓日文化交流基金・東北亜歴史財団編『19101910년 - 그 이전
100년 : 한국과 일본의 서양문명수용 (1910年 - その以前の100年 : 韓国と
日本の西洋文明受容)』ソウル・景仁文化社、3～53頁、内3～28頁韓国語
訳。

1-2 著書・編著

佐藤弘夫『死者のゆくえ』岩田書院、249頁、2008年3月。

佐藤弘夫『立正安国論 全訳注』講談社学術文庫、190頁、2008年6月。

佐藤弘夫『死の機能 前方後円墳とは何か』（共著）岩田書院、2009年。

佐藤弘夫『日本文化論キーワード』（共編）有斐閣、2009年。

佐藤弘夫『韓国語版 概説日本思想史』ノンヒョン社、2010年。

佐藤弘夫『日本中世の国家と仏教』歴史文化セレクション、吉川弘文館、2010年。

佐藤弘夫『新アジア仏教史11 日本仏教の礎』（共編）佼成出版、2010年。

佐藤弘夫『新アジア仏教史12 躍動する中世仏教』（共編）佼成出版、2010年。

佐藤弘夫『新アジア仏教史13 民衆仏教の定着』（共編）佼成出版、2010年。

佐藤弘夫『新アジア仏教史14 近代国家と仏教』（共編）佼成出版、2011年。

佐藤弘夫『新アジア仏教史15 現代仏教の可能性』（共編）佼成出版、2011年。

片岡龍（苅部直と共編）『日本思想史ハンドブック』新書館、2008年3月

片岡龍編 韓日交流誌『STESSA』vol.8、2010年3月

片岡龍（金泰昌と共編）『公共する人間1 伊藤仁斎』東京大学出版会、2011
年1月

片岡龍（金泰昌と共編）『公共する人間2 石田梅岩』東京大学出版会、2011
年10月刊行予定

桐原健真『吉田松陰の思想と行動 - 幕末日本における自他認識の転回 - 』東北大学
出版会、2009年6月

陶徳民・姜克實・見城悌治・桐原健真編著『近代東アジアの経済倫理とその実践
渋沢栄一と張謇を中心に』日本経済評論社、2009年3月

陶徳民・姜克實・見城悌治・桐原健真編著『東アジアにおける公益思想の変容 近世から近代へ』日本経済評論社、2009年3月

桐原健真編『東北大学臨床死生学研究会研究報告』東北大学臨床死生学研究会、2010年10月

1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

佐藤弘夫「神はコンピュータに宿るか」『在家仏教』657号、2007年.

佐藤弘夫「名僧列伝 円仁」『仏教新発見 中尊寺』朝日新聞社、2007年.

佐藤弘夫「墓の行方」『明日の友』170号、2008年.

佐藤弘夫「起請文の神々」『鍔仙』564号、2008年.

佐藤弘夫「シンポジウム「中世における統合の契機とその構造」を聞いて」『日本中世のNATION』岩田書院、2008年.

佐藤弘夫「福神座談会：高木豊著『日蓮攷』『中世日蓮教団史攷』をめぐって」『福神』三一書房、13号、2009年.

佐藤弘夫「書評：末木文美士著『鎌倉仏教展開論』」『宗教研究』83巻1号、2009年.

佐藤弘夫「日本思想史学」他『日本思想史辞典』山川出版社、2009年.

佐藤弘夫「霊と身体—タマ・ミ・カラ」『日本文化論キーワード』有斐閣、2009年.

佐藤弘夫「伊勢神宮と出雲大社」『日本文化論キーワード』有斐閣、2009年.

佐藤弘夫「権現と本地垂迹」『日本文化論キーワード』有斐閣、2009年.

佐藤弘夫「盆と正月—先祖霊と再生」『日本文化論キーワード』有斐閣、2009年.

佐藤弘夫「祭り—神様とのつき合い」『日本文化論キーワード』有斐閣、2009年.

佐藤弘夫「ケガレとハラエ」『日本文化論キーワード』有斐閣、2009年.

佐藤弘夫「成仏する草木—日本の自然観」『日本文化論キーワード』有斐閣、2009年.

佐藤弘夫「断罪される進歩史観—網野善彦『「日本」とは何か』」『日本文化論キーワード』有斐閣、2009年.

佐藤弘夫「入学試験制度の改革」『東北大学百年史 通史2』2009年

佐藤弘夫「書評：松尾剛次『破戒と男色の仏教史』」『中外日報』1月24日号、2009年.

佐藤弘夫「書評：菊地大樹著『中世仏教の原形と展開』」『史学雑誌』118巻1

- 号、2009年.
- 佐藤弘夫「 聖なるもの をどう捉えるか」『検証 網野善彦の歴史学』岩田書院、2009年.
- 佐藤弘夫「書評：ルチア・ドルチェ、松本郁代編『儀礼の力』」『週刊読書人』2847号、2010年.
- 佐藤弘夫「親鸞とその時代」『無限洞』6号、2010年.
- 佐藤弘夫「再生する親鸞—今村親鸞論の位置」『無限洞』7号、2010年.
- 佐藤弘夫「今に問う言葉」3回連載『読売新聞』2010年.
- 佐藤弘夫「「ヒトガミ信仰」の系譜」『金光教学』50号、2010年.
- Sato Hiroo “Review: Lucia Dolce, Matsumoto Ikuyo, eds., The Power of Ritual”
CSJR Newsletter, 20-21, 2010年.
- 佐藤弘夫「死者と出会う場所」『生と死への問い』東北大学出版会、2011年.
- 片岡龍 書評／楊国栄『儒学的思惟与辨』＜韓国語＞『儒教文化研究』第11輯、2007年.
- 片岡龍 書評／楊国栄『儒学的思惟与辨』＜中国語＞『儒教文化研究(国際版)』第7輯、2007年.
- 片岡龍「日本と韓国間の普遍性構築をめざして」『東洋経済日報』2007年9月28日号
- 片岡龍「下降の時代に思想史を」『東京新聞』・『中日新聞』2008年3月31日
- 片岡龍 対談／「思想の漢文脈と和文脈」『大航海』67、2008年.
- 片岡龍「対談／「日本人の実心とはなにか その1」」『公共的良識人』202、2008年
- 片岡龍「書評／佐藤正英著『小林秀雄—近代日本の発見』」『日本思想史学』40、2008年
- 片岡龍「対談／「日本人の実心とはなにか その2」」『公共的良識人』203、2008年
- 片岡龍「書評／松田宏一郎著『江戸の知識から明治の政治へ』」『日本歴史』734、2009年
- 片岡龍「書評：立岩真也・尾藤廣喜・岡本厚『生存権 いまを生きるあなたに』」『図書新聞』2932号、2009年9月5日
- 片岡龍「伊藤仁斎の「哲学」を東アジアから、世界の「公共」のために再読する」『公共的良識人』222号、2010年5月1日

- 片岡龍「私たちはどのようなときに道徳的行為者となるのか」『公共的良識人』227号、2010年10月1日
- 片岡龍「儒学・儒教は日中韓をむすび・つなぎ・いかすことができるのか」『公共的良識人』228号、2010年11月1日
- 片岡龍「自己実現（満足）から自他の幸福共創（共福）へ」『公共的良識人』229号、2010年12月1日
- 片岡龍「東北から誠意をこめて」『公共的良識人』234号、2011年5月1日
- 片岡龍「東日本の複合災害と「東学的ソソビ」の開闢志向」『公共的良識人』236号、2011年7月1日
- 大川真 苅部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』「家永三郎」・「もっと知りたい人のために 近世」の項執筆(新書館、2008年3月、188-189,200-201頁)
- 大川真「「知」の伝達をめぐる全体討論総括—反時代的精神を懐中しながら」『年報日本思想史』7号、日本思想史研究会、2008年3月。
- 大川真「佐久間正著『徳川日本の思想形成と儒教』」『文芸研究』165集、日本文芸研究会、2008年3月
- 大川真「荻生茂博著『近代・アジア・陽明学』」『日本思想史研究』40号、東北大学文学研究科日本思想史研究室、2008年3月。
- 大川真,和久井洋子,スーザン・L・バーンズ『国家以前 - 近世日本における国学と共同体の表象 - 』,『日本思想史研究』41号,2009年3月25日。pp.118-137
- 大川真『日本思想史事典』(年表近世部担当)、山川出版社、2009年4月、
- 大川真「山鹿素行」、「貝原益軒」、「山崎闇斎」、「新井白石」、「天皇と幕府・政府—権威と権力」の項担当執筆。遠山淳・中村生雄・佐藤弘夫編『日本文化論キーワード』74-75,147-148,150-151(有斐閣アカデミア、2009年4月)
- 大川真「回顧と展望」(2008年近世、思想編)(『史学雑誌』118-5、2009年5月、827-830頁)
- 大川真,永井隆之ほか編『検証網野義彦の歴史学』全体討論(司会)(岩田書院,2009年9月),ディスカッションのため本人執筆部析出不可能。
- 大川真「知」の伝達をめぐる全体討論総括—反時代的精神を懐中しながら,単著,査読無 2008年3月25日,『年報日本思想史』7号,日本思想史研究会,pp.57-60
- 大川真「オランダにおける日本研究の現状と資料調査の報告,2010年3月25日、

- 『年報日本思想史』9号,日本思想史研究会, pp.34-35
- 大川真 渡辺浩著「日本政治思想史 十七世紀～十九世紀」,2010年5月7日 『週刊読書人』2837号。
- 大川真「新井白石と正徳の治」,「荻生徂徠と古学」,「『葉隠』『五輪書』と武士道」,「富永仲基の大乗非仏論」(『大法輪』(特集日本の仏教と日本の思想), pp.77-9, pp.89-91,93,大法輪閣,2010年9月1日)
- 大川真「学びの場のこれから - シンポジウム「近世の旅と名所」を終えて - 」,単著,査読有,2011年3月25日,『年報日本思想史』10号,日本思想史研究会
- 桐原健真(岡部 健・相澤 出・竹之内 裕文・三井 ひろみと共著)「【座談会】地域在宅ケアを考える・5 日本社会における「死の文化」変容—在宅ホスピスの現場から見えてくるもの」,『公衆衛生』2008年、72巻6号、483～489頁
- 桐原健真「藤田大誠著『近代国学の研究』」,『明治維新史研究』、2009年、63～66頁
- 桐原健真「専応口伝——日本的美意識の誕生」(143頁)・「政談——日本における政治的人間の模索」(153頁)・「翁の文——文化類型的日本論の先駆」(154頁)・「南総里見八犬伝——近世日本における伝奇小説の最高峰」(157頁)・「国意考——自然調和型日本観の成立」(156頁)・「古事記伝——「漢意」と「古意」」(158頁)・「東海道四谷怪談——義理人情の表と裏」(159頁)・「真善美日本人——冷徹なナショナリストの自己分析」(168～169頁)・「『思想の科学』——多元主義の知識人たち」(184～185頁)・「タブーへの挑戦と戦後歴史学——江上波夫『騎馬民族国家』1967年」(188～189頁)・「近代における漢字と漢文——子安宣邦『漢字論』2003年」(232～233頁)、遠山淳・中村生雄・佐藤弘夫編『日本文化論キーワード』有斐閣、2009年(計11項目)
- 桐原健真「8章 “あの世”はどこへ行ったか」(諸岡了介との共同執筆)・「9章 日本人の死生と自然」・「コラム 病院の思想」、清水哲郎監修・岡部健/竹之内裕文編『どう生き どう死ぬか——現場から考える死生学』弓箭書院、2009年
- 桐原健真「世界的眼孔・松陰と小楠の国際社会認識——近代国家間システムを超越する思想」,『別冊・環(17):横井小楠 1809-1869 「公共」の先駆者』藤原書店、2009年11月、170～174頁
- 桐原健真「日本思想史系データベースの利用とその現状」,『日本歴史』(2010年1月号:740、101～103頁)
- 桐原健真「書評:布引敏雄著『長州藩維新団—明治維新の水平軸』」,『部落解放』2010年3月号、70～73頁
- 中村義・久保田文次・陶徳民・藤井昇三・川邊雄大・町泉寿郎編『近代日中関係

史人名辞典』東京堂出版、2010年7月、(小牧昌業・本田成之・河口慧海・能海寛)

桐原健真「「情報の海」を越えて 吉田松陰の情報との向き合い方に学ぶ」『人間会議』2011年6月、夏号 56～61頁

1-4 口頭発表

(1) 国際学会

Hiroo Sato “Mononoke and Kami : The Causes of Illness in Early Japan” International Conference on Arts and Humanities 2007, Hawaii Univ. USA, 2007年.

佐藤弘夫「遣唐使像の変容」国際シンポジウム・東アジア文化交流の源流、浙江工商大学、中国、2007年9月.

Hiroo Sato “Buddhas and Kami in Japan” International Conference on Arts and Humanities2008, USA, 2008年1月.

Hiroo Sato “Transition of View of Mountains in Japan” 国際シンポジウム・Shugendo: The History and Culture of a Japanese Religion, Columbia University, USA, 2008年4月.

佐藤弘夫「日本における天台宗の地方伝播」国際シンポジウム・海を渡る天台文化、中国、2008年5月

Hiroo Sato “The Emergence of Shinkoku(Gods’ Land) Ideology”国際シンポジウム：Religiou ‘Nativism’ in Buddhist Societies, German, 2008年9月.

Hiroo Sato “Tenno Ideology and Discourse” EAJS Conference 2008, Italy,2008年9月.

Hiroo Sato “The destination of the Dead” International Conference on Arts and Humanities2009, USA, 2009年1月.

佐藤弘夫「大学院生のための日本学国際交流プログラムーその可能性と課題」国際会議、関西大学、2010年1月.

佐藤弘夫「「日本思想」は存在するか」国際シンポジウム・東アジアの思想と対話ー国境・テキスト・礼楽、嶺南大学、韓国、2010年11月.

佐藤弘夫「中世「仏教」文明の形成と君主権」国際シンポジウム・君主権の構築と「仏教」文明、早稲田大学、2010年12月.

Hiroo Sato “Transition of the View of Mountains in Japan” International Conference on Arts and Humanities 2011, USA, 2011年1月.

佐藤弘夫「彼岸に誘う神ー日本の浄土信仰におけるイメージとヴィジョン」国際シンポジウム・イメージとヴィジョン 東西比較の試み、東京大学、2011年2月.

Hiroo Sato “The Destination of the Dead” 国際シンポジウム・Combinatory Practices in Japan:Rethinking Religious Syncretism、University of London, UK, 2011年2月.

佐藤弘夫「東北アジアにおける多文化共生の伝統」国際シンポジウム・東北アジアにおける多文化共生、内モンゴル大学、中国、2011年8月.

Hiroo Sato “The Dead,The Living,The Gods as the Driving Forces of History” EAJS International Conference, Tallinn University, Estonia, 2011年8月.

片岡龍「儒教に対する使命感と諦念」日韓共同シンポジウム：18 - 19世紀東

- アジア思想空間の再発見 丁茶山の時代の韓国・日本学術史、東北大学マルチメディアホール教育研究棟6F、2007年8月31日
- 片岡龍「伊藤仁齋における『孟子』」第5回日本漢学国際学術検討会、国立台湾大学文学院演講庁、2008年3月29日
- 片岡龍「朱子学派・古学派の知的教養としての側面」国際儒教文化研究論壇創立記念学術検討会招待発表、成均館大学600周年記念館、2008.5.24
- 片岡龍「荻生徂徠—「独学」の魅力—」成均館大学東アジア学術院招待発表、成均館大学東アジア学術院、2008.6.20
- 片岡龍「朱子学からの転換」韓国政治思想学会 - 日本政治思想学会共同主催第7回韓・日国際学術会議、高麗大学100周年記念館国際遠隔会議室、2008.6.21
- 片岡龍「目に見えないものへの想像力」韓・日思想史共同シンポジウム、韓国学術振興院第一層会議室、2008.8.12
- 片岡龍「14～19Cの日本の学問」台大日文教学の新視野暨研究生研習營、台湾大学文学院哲学系會議庁、2008.10.15
- 片岡龍「文化史の研究手法」台大日文教学の新視野暨研究生研習營、台湾大学文学院哲学系會議庁、2008.10.16
- 片岡龍「思想史の周辺」台大日文教学の新視野暨研究生研習營、台湾大学文学院哲学系會議庁、2008.10.16
- 片岡龍「伊藤仁齋の学問観 — <公共>への参与と鑑識—」第94回公共哲学京都フォーラム「21世紀アジアの公共的良識の思想源流 —再読：伊藤仁齋」京都リーガロイヤルホテル2009.3.14
- 片岡龍「石田梅岩から考える「公共する」実践」第97回公共哲学京都フォーラム大阪リーガロイヤルホテル「公共する人間としての石田梅岩を日中韓で語りあう」2010.7.25
- 片岡龍「「礼楽」の開く公共世界 荻生徂徠の思想から」第97回公共哲学京都フォーラム大阪リーガロイヤルホテル「儒学（儒教）の開く公共世界」2010.9.11
- 片岡龍「韓日思想架橋：伊藤仁齋と丁茶山の間から」世界と相通する慶北正体性国際フォーラム、韓国学術振興院（韓国・安東）、2011.6.3
- 片岡龍「日本における『論語』の読まれ方 伊藤仁齋（京都）・荻生徂徠（江戸）・照井一宅（盛岡）・下村湖人（佐賀）を中心に」第105回公共哲学京都フ

オーラム「論語と荘子のあわい」京都リーガロイヤルホテル 2011.9.18
Okawa Makoto Kishin, “Shinto and Reigaku in the Middle-Edo Period”(Perspectives on Religion and Ritual in Early Modern Japan, Organized by Leiden Institute for Area Studies), 2009年6月。

大川真, 松平定信之《大學》釋義(台湾大学主催国際シンポジウム「東アジアの儒学と日本」), 台北, 2009年9月26日。

桐原健真「「帝国」の誕生——19世紀日本における国際社会認識」、台湾中央研究院・人文社会科学研究センター・亜太区域研究専題中心主催「東亜世界中日本社会的特徴国際研討会」、2007年03月15～16日、中華民国(台湾)・台北市中央研究院。

桐原健真「幕末維新期尊攘論における国際社会認識の転回——「帝国」言説をめぐって」、韓日文化交流基金/東北亜歴史財団主催「1910年、その以前の100年：韓国と日本の西洋文明受容」(於大韓民国仁川市・パラダイスホテル、2010年6月12日～13日)

桐原健真「The Quest for Mahayana: Kawaguchi Ekai and the Buddha's “Golden Words”」, International Association for the History of Religions「パネルセッション：Rethinking Japanese Buddhism: Kawaguchi Ekai and Murakami Sensho」、カナダ・トロント大学、2010年08月20日

桐原健真「他者としての「中国」研究——近代日本における学知の形成」、嶺南大学中国学研究センター・東北大学大学院日本思想史研究室共同開催国際シンポジウム「東アジアの思想と対話：国境・テキスト・礼楽」・パネルセッション「日本における中国研究の現況」(於大韓民国慶山市・嶺南大学、2010年11月20日)

(2) 国内学会

佐藤弘夫「ヒトガミ信仰の系譜」金光教教学研究所第42回教学研究会基調講演、金光教教学研究所、2009年9月8日。

佐藤弘夫「近代の歴史学と『立正安国論』」シンポジウム:近現代における国家と宗教—『立正安国論』をめぐって、立正大学、2009年6月5日。

佐藤弘夫「西行における「山」と救済」第一回西行学会大会シンポジウム、國學院大學、2009年8月30日。

佐藤弘夫「ヒトガミの誕生—日本列島における死者供養の淵源」日本宗教学会第68回学術大会、京都大学、2009年9月12日。

佐藤弘夫「崇る神から罰する神へ」土井道子記念京都哲学基金シンポジウム：神

- 道と日本の神々、京都大学、2009年9月28日。
- 佐藤弘夫「蒙古の調伏者」日蓮像の形成」シンポジウム：予言と調伏のかたち、京都国立博物館、2009年10月23日。
- 佐藤弘夫「日本文化と放浪の系譜」日本映像民俗の会シンポジウム：放浪の系譜—空也から井月まで、伊那市、2009年12月25日。
- 佐藤弘夫「島の魅力—ああ、松島や」地中海トーク、地中海学会、東北大学、2010年、6月19日。
- 佐藤弘夫「再生する親鸞—今村親鸞論の位置」シンポジウム：今村社会哲学と仏教—『親鸞と学的精神』をめぐって、仙台、2010年7月8日。
- 佐藤弘夫「シンポジウム：神と王の呪縛・コメント」東北中世史サマーシンポジウム：神と王の呪縛—人々を統合するもの、仙台、2010年8月29日。
- 佐藤弘夫「シンポジウム：近代日本の宗教・コメント」日本思想史学会大会シンポジウム：近代日本の宗教—仏教を中心に、岡山大学、2010年10月16日。
- 佐藤弘夫「生と死のあいだ—看取り・葬儀・供養」多文化フォーラム：多文化からみた死と看取り、仙台、2010年11月28日。
- 佐藤弘夫「幽霊の誕生—江戸時代における死者供養の変容」日本宗教学会第70回学術大会、2011年9月3日。
- 佐藤弘夫「神・彼岸・コスモロジー—歴史学における「空間」の発見」シンポジウム：空間を記述せよ—方法・史料・表象をめぐって」東北大学、2011年9月7日。
- 片岡龍「いまなぜ日本思想史か？」ジュンク堂書店池袋本店「JUNKU 連続トークセッション」ジュンク堂書店池袋本店4Fカフェ、2008 7.3
- 片岡龍「足利学校の学問の性格とその変化について」北海道大学中国文化論講演会 2008.10.25
- 片岡龍「徂徠学再考」北海道大学中国文化論講座座談会、2008.10.27
- 片岡龍「植民地大学の学問の特色をどのように捉えるか—京城帝国大学を中心に—」国際日本文化研究センター共同研究会「帝国と高等教育 東アジアの文脈」2010年度第6回研究会、東京大学教養学部2号館5階会議室、2011.2.5
- 片岡龍「東北から、災害に向きあう新たな人間像を考える」第104回公共哲学京都フォーラム「東日本大震災を公共哲学する」神戸ポートピアホテル 2011.8.22

- 大川真「徳川政権の支配正当化論の諸相—儒学者の場合—」科学研究補助金 基盤研究B「東照宮祭祀の基盤・確立・展開」・研究代表者曾根原理、研究報告会、2008年5月。
- 大川真「政事の構造」論再考、東北大学・奈良女子大学合同研究会シンポジウム「日本の政治の形（かたち）——王権と政治権力をめぐって」2009年03月16～17日、奈良市・奈良女子大学
- 大川真、松平定信の政治思想、2009年10月3日、東北史学会2009年度大会、日本近世近代部会。
- 大川真、シンポジウム「近世の旅と名所」（コーディネイターおよび司会）、米沢女子短期大学、2010年3月。
- 大川真、尊皇攘夷とお岩さん—日本近代のナショナリズムとスピリチュアリズム—、2010年3月27日、東アジア恠異学会第63回例会
- 大川真、執拗くなる怨霊—江戸時代における憑霊と怨霊との対話—、2010年5月20日、第6回東北シャマニズム研究会、東北大学。
- 大川真「江戸のつづれ家」、2010年11月9日、空間史学研究会第1回大会、東北大学。
- 大川真「明治元年における天台宗 鳥取大雲院所蔵「慶応四年 朝政御一新二付 延暦寺建言」をめぐって」、2010年12月、科学研究補助金 基盤研究B「東照宮祭祀の確立と展開」（研究代表者：曾根原理）研究報告会、於東京。
- 桐原健真「『帝国』日本と東アジア——幕末維新时期における国際秩序認識」、明治維新史学会例会、東京・明治大学、2007年5月26日。
- 桐原健真「直線と円環——日本思想における生死」、タナトロジー研究会、仙台市・岡部医院、2007年06月15日。
- 桐原健真「『天下』と『五世界』——幕末期における自他認識の転回」、練馬区・武蔵大学、全国横井小楠研究会大会、2007年09月09日
- 桐原健真「直線と円環——吉田松陰の生死」、日本倫理学会2007年度大会、新潟市・新潟大学、2007年10月13日。
- 桐原健真「『帝国』日本の誕生」、日本思想史学会2007年度大会、長崎市・長崎大学、2007年10月21日。
- 桐原健真「求法の道——河口慧海の「仏教」」、2008年1月26日、千代田区・二松学舎大学、「近代日本の仏教者における中国体験・インド体験」第四回研究会（科学研究費基盤（C）研究分担者報告）
- 桐原健真「仏陀を背負いて西藏へ——河口慧海と 日本仏教」、2008年1月26日、仙台市・東北大学、東北仏教史談話会

- 桐原健真「日本における『帝国』概念の受容」2008年度日本比較政治学会・分科会C「比較政治学としての政治思想史：日本の事例を中心に」、2008年6月22日、横浜市・慶應大学
- 桐原健真「『聖典』を求めて——河口慧海と『日本仏教』」、2008年度日本思想史研究会夏季セミナー「『古典』を考える」、福島県磐梯熱海温泉・金蘭莊花山、2008年8月23日～24日
- 桐原健真「歴史学から倫理学へ——日本思想史の試み」、日本倫理学会第59回大会・ワークショップ2「日本思想から倫理学へ」2008年10月3日、つくば市・筑波大学
- 桐原健真「水戸学の世界像——会沢正志斎を中心に」地方史研究協議会2008年度大会第59回「共通論題 茨城の歴史的環境と地域形成」2008年10月18日～19日、水戸市・常磐大学
- 桐原健真「19世紀東アジアと『帝国』日本」、京都市・京都産業大学世界問題研究所、2008年11月26日
- 桐原健真「尊王と攘夷——「水府の学」としての後期水戸学」、東北大学・奈良女子大学合同研究会シンポジウム「日本の政治の形（かたち）——王権と政治権力をめぐって」2009年03月16～17日、奈良市・奈良女子大学
- 桐原健真「幕末における『帝国』」、幕末史研究会、2009年6月27日、武蔵野市・武蔵野商工会館
- 桐原健真「『帝国』日本から『大日本帝国』へ」、「20世紀と日本」研究会、2009年8月8日、和歌山市・ホテルグランヴィア和歌山
- 桐原健真「直線と円環——日本思想における生死」（患者のウェル・リビングを考える会&タナトロジー研究会「リビングウィル シンポジウム：どう生きどう死ぬか—現場から考える死生学—」2009年09月26日・於神戸市・神戸市立総合福祉センター）
- 桐原健真「あこがれ」としての病院信仰（日本思想史学会2009年度大会「パネルセッション1 在宅ホスピスの現場における日本思想史研究の可能性～「病院死」を選択する日本人～」、2009年09月18日、仙台市・東北大学）
- 桐原健真「「あの世」はどこに行ったか——日本知識人における彼岸の構図」（三都の会、最終回、2010年3月11日（木）、豊島区・大正大学巣鴨校舎総合佛教研究所）
- 桐原健真「世界観闘争としての真宗護法論」（日本思想史学会2010年大会・パネルセッション3「近代仏教と真宗の問題」、2010年10月17日、岡山市・岡山大学）
- 桐原健真「護法・護国・夷狄」（日本思想史学会2011年度大会・パネルセッション「幕末維新期の護法思想・再考」、2011年10月30日、東京都豊島区・学習院大学）

2 教員の受賞歴 (2007～2011 年度)

桐原健真「第4回日本思想史学会奨励賞(2010年度)」受賞(受賞理由:桐原健真『吉田松陰の思想と行動 幕末日本における自他認識の転回』東北大学出版会、2009年)

教員による競争的資金獲得 (2007～2011 年度)

(1) 科学研究費補助金

佐藤弘夫(研究代表者)基盤研究(C)「起請文を素材とする思想史研究の新たな領域と方法の開拓」2005～2007年度、350万円

佐藤弘夫(研究代表者)基盤研究(C)「板碑を素材とする思想史研究の新たな領域と方法の開拓」2008～2010年度、388万円

佐藤弘夫(研究分担者)基盤研究(B)(研究代表者中村生雄)「「供養の文化」の比較研究を通して見る「死」の表象の形成過程とその現代的変容」2007年度～2009年度

佐藤弘夫(研究分担者)基盤研究(B)(研究代表者大淵憲一)「現代日本人の価値観:古層と伝統的思想の影響」2010～2012年度、

佐藤弘夫(研究代表者)基盤研究(C)「石塔と金石文を素材とする思想史研究の新たな領域と方法の開拓」2011～2013年度、490万円

片岡龍(研究代表者)萌芽研究「「図説」の分析・比較を中心とした近世思想史研究の領域の拡大と深化」2006～2008年度、280万円

片岡龍(研究代表者)挑戦萌芽研究「「図説」と「書画」の分析・比較による近世思想史研究領域の拡大と深化」2009～2011年度、270万円

大川真(研究分担者)基盤研究(B)「東照宮祭祀の基盤・確立・展開」(研究代表者曾根原理、2008年～)。

大川真(研究代表者)若手研究(スタートアップ)「18世紀後期日本における近代的国家論の思想史的研究」(課題番号20820005)、研究代表者、2008～2009年度、1560千円。

桐原健真(研究分担者)基盤(C)「近代日本の仏教者における中国体験・インド体験」(小川原正道代表)、2006～2008年度、25万円

桐原健真(研究代表者)研究成果データベース「日本思想史文献データベース検索」、2006年度～、90万円

桐原健真 日本学術振興会科学研究費・基盤(C)「現代日本の死生観の発掘と倫理的基礎づけ——在宅ホスピスの現場との連携を通して」(竹之内裕文代表)、2008年～2010年度、70万円

桐原健真(研究代表者)若手研究(B)「『帝国』の思想史的研究」、2009年度

～、300万円

桐原健真 日本学術振興会科学研究費・基盤（B）「「農」の哲学の構築—学際的な拡がりの中で」（鬼頭秀一代表）、2010年4月採択、25万円（研究分担者）

桐原健真 日本学術振興会科学研究費・基盤（C）「地域社会にみる死生観の現在に関する複合的研究」（諸岡了介代表）、2010年4月採択、80万円（研究分担者）

桐原健真（研究代表者）研究成果データベース「日本儒林叢書テキストデータベース」、2011年度～、250万円

（2）その他

片岡龍 研究科長裁量経費「日本思想と韓国思想の新たな学術史叙述のための共有基盤構築を目的とする国際シンポジウムの開催と論文集の刊行」2007年、30万円

片岡龍 サントリー文化財団「18 - 19C 日本・韓国思想における近代の始原・古層（独自の時間・空間認識）の分析を通じて、日本・韓国の新たな学術基盤の共有をめざす国際的・学際的研究」2007年、100万円

片岡龍 日韓文化交流基金「日本・韓国の新たな学術基盤の共有を目的とする国際シンポジウム（18 - 19C の日本・韓国の学問・政治・宗教・科学）の開催」2007年、31.8万円

片岡龍 インテリジェント・コスモス文化財団「国際学会：18 - 19C の日本・韓国の学問・政治・宗教・科学」2007年、10万円

桐原健真 2005年度東北大学若手研究者萌芽研究育成プログラム「医療現場との対話による「臨床死生学」の創生——地域の自然と文化に支えられた「死」の意味」（竹之内裕文代表・代表者転出のため成果報告時に代表代行）2005年10月～2007年3月、5万円

桐原健真 2007年度財団法人笹川医学医療研究財団在宅ホスピス緩和ケア研究助成「看取る文化の再構築——在宅ホスピスのための死生観教育プログラムの開発」（竹之内裕文代表）、2007年4月～2010年度、10万円

桐原健真 ファイザーヘルスリサーチ振興財団研究助成「在宅ターミナルケアを阻害する社会的・文化的因子の構造解析」（竹之内裕文代表）2007年度、4万円

桐原健真 2007年度東北大学若手研究者萌芽研究育成プログラム「医療現場との対話による「臨床死生学」の確立——歴史的・文化的アプローチに基づいた「死生」観研究とそのアーカイブ化」（桐原健真代表）、2007年～2010年

度、200万円

教員による社会貢献（2007～2011年度）

佐藤弘夫

COE分野別評価部会委員(2007年度)

日本学会協議連携会員（2006年8月～2008年9月、2011年10月～）

科学研究費委員会専門委員（2008年度）

日本と東アジアの未来を考える委員会（2009年度～）

仙台市博物館協議会委員（2010年度）

講座「日本仏教と死—葬儀の歴史と死生観の変容」国際仏教学大学院大学、
2007年5月。

講演「専修念仏弾圧の歴史的背景」大谷大学親鸞聖人誕生会記念講演、2007
年6月。

講演「死者のゆくえ—日本における死生観の変容」岩手大学図書館、2007
年6月。

講演「専修念仏弾圧の歴史的背景」信道講座、真宗大谷派名古屋別院、2008
年2月。

講演「瑞巖寺」シンポジウム：松島湾の文化遺産、塩竈市民交流センター、
2008年7月。

講演「墓から読む歴史」文学研究科齋理屋敷講座、2008年10月。

講演「成仏する草木—聖なる植物の系譜」東北大学植物園公開市民講座、
植物園、2008年10月。

講演「霊場・城下町・学都—仙台・誕生と変貌の軌跡」みやぎ県民大学、2010
年9月。

講演「死者に出会う場所」奈良歴史学入門講座、奈良女子大学、2011年6
月。

片岡龍

講演「蘆東山（1696 - 1776）とその時代」東北大学文学部有備館講座、2007
年11月

講演「リメンバー・ウーマンリブ！」東北大学文学部齋理講座、2010
年7月

講演「日本人の幸福思想」樹福書院講座、樹福書院（大阪）2011年9月

大川真

吉野作造記念館（NPO法人古川学人）主催次世代人材育成研究会に講師とし
て参加（宮城県大崎市）、2008年8月。

吉野作造記念館（NPO 法人古川学人）主催次世代人材育成研究会事務局を担当、また講師としても参加（宮城県大崎市）、2009年8月。

野作造記念館（NPO 法人古川学人）主催次世代人材育成研究会事務局を担当、また講師としても参加（宮城県大崎市）、2010年9月。

桐原健真

講演「歴史を『読む』ということ」（2007年12月2日）・「歴史とわたしたち」（2007年12月8日）、仙台市・東北大学、東北大学大学院文学研究科主催「ステップアップ開放講座」

講演「直線と円環——日本思想における生死」、東北死生学研究会、2007年06月15日、仙台市・医療法人社団爽秋会岡部医院

講演「直線と円環——日本思想における生死」（患者のウェル・リビングを考える会&タナトロジー研究会「リビングウィル シンポジウム：どう生きどう死ぬか—現場から考える死生学—」2009年09月26日・於神戸市・神戸市立総合福祉センター）

講演「あの世はどこへ行ったか」、NPO法人・介護者応援ネットワークみやぎ「介護と看取りのしゃべり場」2010年5月29日、於仙台市・戦災復興記念館

講演「死して朽ちず：吉田松陰の死と生」（財団法人東北多文化アカデミー・多文化講座「介護と看取りのセミナー」2011年03月05日・於仙台市・東北多文化アカデミー

教員による学会役員等の引き受け状況（2007～2011年度）

佐藤弘夫

日本思想史学会評議員（2007～2011年度）

日本思想史学会会長（2010年～）

日本文芸研究会委員（2007～2011年度）

東北史学会評議員（2007～2011年度）

日本宗教学会評議員（2010年度～）

片岡龍

日本思想史学会評議員（2009～2010年度）

中国社会文化学会評議員（2009～2011年度）

大川真

日本思想史学会事務局幹事（2008年度～2010年度）

日本文芸研究会編集委員（2008年度～）

桐原健真

明治維新史学会委員（2000年度～）

日本文芸研究会委員（2008年度～）
日本思想史研究会査読委員（2008年度～）

教員の教育活動（2011年度）

（1）学内授業担当

1 大学院授業担当

佐藤弘夫

1 学期 日本思想史特論 巡礼と霊場の思想

2 学期 日本思想史特論 国家と宗教

片岡龍

1 学期 日本思想史特論 人格形成の思想

2 学期 日本思想史特論 制度と人倫

佐久間正

集中講義 日本思想史各論 環境思想史の諸問題

佐藤弘夫・片岡龍

1 学期 日本思想史研究演習 日本思想史の諸問題

2 学期 日本思想史研究演習 日本思想史の諸問題

2 学部授業担当

佐藤弘夫

3 セメスター 日本思想史概論 「日本思想史」の課題と方法

4 セメスター 日本思想史基礎講読 古代・中世思想史文献講読

5 セメスター 日本思想史各論 巡礼と霊場の思想

6 セメスター 日本思想史各論 国家と宗教

片岡龍

3 セメスター 近世・近代思想史文献講読

4 セメスター 日本思想史概論 「日本思想史」の意義と発展

5 セメスター 日本思想史各論 人格思想の形成

6 セメスター 日本思想史各論 制度と人倫

佐久間正

集中講義（5 セメスター）

日本思想史各論 日本環境思想史の構造

佐藤弘夫・片岡龍

5 セメスター 日本思想史演習 日本思想史の諸問題

6 セメスター 日本思想史演習 日本思想史の諸問題

3 共通科目・全学科目授業担当

片岡龍

1 セメスター 人文社会科学総論

基礎ゼミ 20 アジアの中で「戦後日本」を考える

桐原健真

1 セメスター 人文社会科学序論「メディアリテラシー入門」

2 セメスター 人文社会科学序論「メディアリテラシー入門」

1 セメスター カレントトピックス・国際共修ゼミ「日本の思想と歴史」

2 セメスター カレントトピックス・国際共修ゼミ「日本の思想と歴史」

(2) 他大学への出講(2007～2011年度)

片岡龍 韓国・成均館大学 2008年度

片岡龍 台湾大学 2008年度

片岡龍 北海道大学 2008年度

大川真 米沢女子短期大学 2008年度

大川真 米沢女子短期大学 2009年度

大川真 米沢女子短期大学 2010年度

桐原健真 茨城大学(人文学部) 2008年度

桐原健真 茨城大学(人文学部) 2008年度

桐原健真 茨城大学(人文学部) 2009年度

桐原健真 茨城大学(人文学部) 2010年度

桐原健真 尚絅学院大学(人間心理学科) 2011年度